

マネジメント講座

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）停止に伴う業務への影響を懸念する声は多い。サポートを誰が行うべきであろうか。

従来のソフトウェアの保守メンテナンスと同様システムエンジニアが対応すべきだろうか。それとも「風邪をひいて休む」と同じと捉えて上司や同僚が対応すべきか。この問いには正解がない

が、RPAを消化し高度化している企業には後者が多い。デジタル「人」の面倒を自然「人」がみているわけである。

このような背景からデジタルレイバーのマネジメントを専門にするRPA女子が誕生。2018年5月に発足した「RPA女子プロジェクト」には主婦、ワーキングマザー、キャリアチェンジを志向する女性から1万人を超える応募が殺到。スキルを身に付けたRPA

A女子が19年3月には千人を超える予定である。

酒井裕美子さんはIT会社に勤務経験のある専業主婦。現在はRPA女子となり、家事や子育ての合間に複数社のロボット開発や保守運用を遠隔サポートしている。「RPAと出会う事で子供の面倒も見ながら在宅で仕事ができ、子育てと両立できている」と話す。

夏からRPA女子になった関本結希奈さんは元SEのシングルマザー。

「シングルマザーという厳しい環境の中で子供との時間が取れ、収入も得られる仕事を見つけたかった。RPAと連携するツールに触れる機会も増え仕事をしながら最新のITを学べる」と語る。

デジタルレイバーという経営技術は女性の復職という社会課題を「楽しさ」をもって解決し、新しい未来の形を醸成し始めている。

（RPAテクノロジーズ代表取締役社長 大角暢之）

サポート女子 続々誕生

RPA入門 ⑦

関本さんのある1日

6:30	起床
7:30	子供の送り出し
~8:30	家事
~9:00	RPA女子PJのメール／SNSにて業務連絡の確認
9:00~	自宅で優先度の高いタスクから作業。作業が行き詰まるとSNSで質問し、返信がくるまで次優先の作業をする
12:00頃	昼食休憩
~17:00	午後の作業、子供のお迎え、夕食・家事
21:30~	子供を寝かしつけたあとも、作業する日もある
23:30	就寝